主題：キリストのからだの実際

メッセージ　11

キリストのからだの感覚

聖書：Ｉコリント12:26-27．Ⅱコリント11:28-29．コロサイ2:19．
ローマ12:4-5，15．ピリピ1:8

Ｉ．聖書の教えとわたしたちの霊的経験によれば、キリストのからだの感覚と呼ばれるものがあります――Ｉコリント12:26-27．Ⅱコリント11:28-29。

Ⅱ．キリストのからだの感覚は、キリストの享受からやってきます――コロサイ2:16-19：

Ａ．わたしたちが食物、飲み物、息として享受している愛すべき尊い方は、からだのかしらです――Ｉコリント10:3-4．ヨハネ20:22．コロサイ1:18．2:19：

１．わたしたちがキリストについて享受するものは、実はかしらとしての彼からのものです。こういうわけで、わたしたちはキリストを享受するとき、かしらとしての彼に結び付くのです――10，16-17，19節。

２．キリストを主観的に、また経験的にわたしたちのかしらとならせるものは、キリストの享受です――エペソ3:8，17．4:15。

Ｂ．わたしたちはキリストを享受するとき、かしらである彼はわたしたちにからだについての感覚を持たせます――コロサイ2:19。

Ｃ．わたしたちはキリストを享受すればするほど、わたしたちの享受するキリストがからだのかしらであることを、さらに経験的に認識します。この認識はわたしたちにからだについての感覚を持たせ、からだのすべての肢体を愛させます。

Ｄ．わたしたちの享受するキリストはかしらであり、彼はわたしたちにからだについての感覚を持たせます。ですから、キリストを享受し、かしらとしての彼に結び付くことの結果は、わたしたちがキリストのからだについての感覚を持つようになることです――16-19節。

Ⅲ．キリストのからだの感覚は、わたしたちの内側にあるキリストの命の感覚です――コロサイ3:4，15．ローマ8:2，6，10-11．12:4-5：

Ａ．キリストの奥義的なからだは、わたしたち一人一人の中で命であるキリストによって形成されており、またわたしたちとミングリングされています――コロサイ3:4．2:19：

１．もしわたしたちが依然として自分自身の命の中に生きているのであれば、わたしたちはこの命を認識することができません。この命はわたしたちとミングリングして、わたしたちをキリストのからだに形成します――マタイ16:24．Ｉコリント2:14．3:1-3．12:12-27．エペソ4:13-16。

２．聖書とわたしたちの経験が証明することによれば、わたしたち一人一人はキリストのからだの肢体ですが、わたしたち一人一人の中にある命は、「肢体」の命ではなく、「からだ」の命です――Ｉヨハネ5:11-12．ローマ12:4-5。

３．キリストのからだの中では、一人の肢体がからだに結合されるとき、あるいはからだと交わりを持っているとき、彼の命はからだの命であり、からだの命は彼の

命です――Ⅰヨハネ1:1-3。

4．この命はわたしたちとミングリングして、キリストのからだとなります――ローマ8:10．12:4-5。

B．キリストのからだの感覚に関して、わたしたちは内側にある神聖な命の感覚をもって始める必要があります――8:6：

1．この感覚は、神の霊から、またわたしたちの霊の中にある神の命から生じます――2，10節。

2．内側にある神聖な命は感覚を持っています。またわたしたちの再生された霊も感覚を持っています――6，16節．Ⅱコリント2:13。

3．この感覚は命の感覚と呼ばれます。それはまたキリストのからだの感覚でもあります――ローマ12:15．Ⅰコリント12:26-27。

C．もしわたしたちがこの感覚を訓練するなら、それはわたしたちにからだに関する事柄について感覚を持たせるようになります――ローマ12:15。

D．もしわたしたちがこの感覚を培うなら、からだの中の問題を見抜くことができるようになります。

E．もしわたしたちが常にこの感覚を訓練し、神を愛し、召会を顧慮するなら、この感覚はからだの感覚となります――Ⅱコリント11:28-29。

F．自己を考慮したり、自分の特別な働きを愛するゆえに、わたしたちの内なる感覚は抑圧されます。これが示していることは、わたしたちがからだの中にいるという感覚が十分でなく、わたしたちが依然として自分自身の中にとどまっているということです――ローマ12:4-5。

Ⅳ．キリストのからだは宇宙的であり、わたしたちの内側にある命も宇宙的であり、からだの感覚も宇宙的です――Ⅰコリント12:26-27．Ⅱコリント11:28-29：

A．いったん神聖な命とその霊がわたしたちの中に入れば、わたしたちは宇宙的な感覚、すなわち、からだの感覚を持つはずです――ローマ8:2，10-11．12:4-5，15。

B．からだの感覚は宇宙的なものです。しかし、この感覚は、わたしたち自身の感覚や見解のゆえに、わたしたちの中で制限されています――箴14:10．Ⅱコリント6:11-13。

C．わたしたちが主の砕きを経験して、自分自身から救い出されれば出されるほど、さらにわたしたちは、からだの感覚が宇宙的であることを発見するでしょう――11:28-29。

D．もしわたしたちがからだの感覚を持つなら、他の人たちが苦しんだり祝福されたりするとき、わたしたちは彼らと一体となって、同じ困難や祝福を感じるでしょう――Ⅰコリント12:26-27。

Ⅴ．キリストのからだの感覚は、わたしたちの考え方と密接な関係があります――コロサイ2:18．3:2．ローマ12:2-3．エペソ4:23：

A．わたしたちの考え方は、物事についてのわたしたちの理解であり、極めて重要なものです。物事についての正しい完全な理解があるなら、考え方は正常です。

B．もしわたしたちがキリストのからだについての十分な理解を持っていないのであれば、わたしたちの考え方は正しくなく、わたしたちはキリストのからだについての

共通の認識を持つことができないでしょう――ローマ12:4-5．エペソ4:22-24。

Ⅵ．わたしたちはキリストのからだの肢体として、からだの感覚とからだに対する感覚を持つ必要があります――ローマ12:15．Ⅱコリント11:28-29：

Ａ．からだの生活を生きるために、わたしたちはからだについての感覚を持つ必要があります――Ⅰコリント12:26-27。

Ｂ．パウロは召会を顧慮するとき、キリスト・イエスの心を自分自身の心としました――ピリピ1:8：

１．パウロは、キリストの感覚を自分自身の感覚とすることによって、キリストのからだを顧慮しました――参照、使徒9:4-5。

２．からだに対するキリストの感覚は、からだに対するパウロの感覚となりました。

３．パウロと同じように、わたしたちはかしらの感覚を自分自身の感覚とすべきです。

Ｃ．もしわたしたちがキリストのからだの感覚を持ち、からだを顧慮するなら、わたしたちはからだをわたしたちの思想と行動における規範とするでしょう――エペソ4:15-16。

©2006 Living Stream Ministry

キリストのからだの感覚を顧慮することによって、キリストのからだを尊ぶ

Ⅰ.「わたしたちは何かを行なうときはいつも、からだに対する正しい顧慮を持たなければなりません。わたしたちは行なっていることについて、からだがのように感じるかを考慮する必要があります。最大の問題、唯一の問題は、からだを認識せず、からだを顧慮しないことです。からだを顧慮し、からだに関心を持つなら、問題はないでしょう」。

Ⅱ.「わたしたちの態度は、からだを見ることにかかっています。唯一の治療法は、キリストのからだを見ることです。それはイエスかノーか、良いか悪いかの事柄ではありません。それはからだのものであるか、からだのものでないかの事柄です。わたしたちは極みまでからだの感覚を持たなければなりません。主が望んでおられるのはからだです。しかし今日、真にからだを顧慮している人は多くありません」。

Ⅲ.「わたしたちはここに、からだのためにいます。からだの支援がなければ、回復の支援がなければ、わたしたちには地方召会を実行する道はありません。もし召会生活を実行して、からだの観点を無視するなら、わたしたちの地方召会は地方分派となります」。

Ⅳ.「わたしたちは何かを行なうとき、自分はからだの肢体であること、からだは地方召会だけではないことを忘れてはなりません。地方召会は『地方のからだ』ではありません。もしそうであれば、それは地方分派となります」。

Ⅴ.「務めも回復にある多くの召会も、ある分裂的な者たちを隔離することを決定しました。ある人たちはこの決定を受け入れないで、これらの分裂的な者たちと結び付きさえしました。彼らはからだの感覚を重んじませんでした」。

Ⅵ.「わたしたちはローマ人への手紙第14章の原則にしたがって、すべての主の子供たちを受け入れますが、ローマ人への手紙第16章17節にしたがって、分裂を作る者たちを警戒し、彼らから離れ去らなければなりません。わたしたちはからだによって隔離されている分裂を作る者たちを、受け入れることはできません。再びこれは、からだの生活を実行する事柄です。もしある地方召会が、からだに対して極みまで罪を得たある者を受け入れるなら、その地方召会は明らかに、からだと共に前進しておらず、からだと一ではありません。わたしたちはからだを顧慮しなければなりません」。

Ⅶ.「回復の中で問題を作り、なおも問題を作っている人を受け入れることは、からだと大いに関係があります。からだは確かに、分裂を作る者がある地方召会にいて、彼らがそれを取り扱っていないことを調べるでしょう。もしそのような者を取り扱っていないなら、彼らは間違っており、からだに対して罪を得ています」。

Ⅷ.「わたしたちが過去、ある人からどれほど多く助けを受けても、もし彼がからだに対して罪を得るなら、わたしたちは真理を実行しなければなりません。わたしたちはからだを認識し、からだに信頼しなければなりません。わたしたちは召会に聞き従うべきでしょうか、それともその状況に対する自分の個人的な観察を顧慮すべきでしょうか？　もし多くの召会の通告をわきに置いて、自分でその状況を調査するなら、これはからだに対して罪を得ることです。わたしたちはからだを尊ぶのでしょうか、それとも自分自身を尊ぶのでしょうか？」。

Ⅸ.「回復はからだのためであって、どの個人のためや、どの個別の地方召会のためでもありません。わたしたちが何かを行なおうとするなら、からだ、回復がどのように反応するかを考慮しなければなりません。問題はすべて、からだを見てからだを顧慮するのに欠けることによります。わたしたちはからだを尊ばなければなりません」（以上すべて、「召会生活の中で騒動をひき起こす問題」からの引用）。

© *Living Stream Ministry*